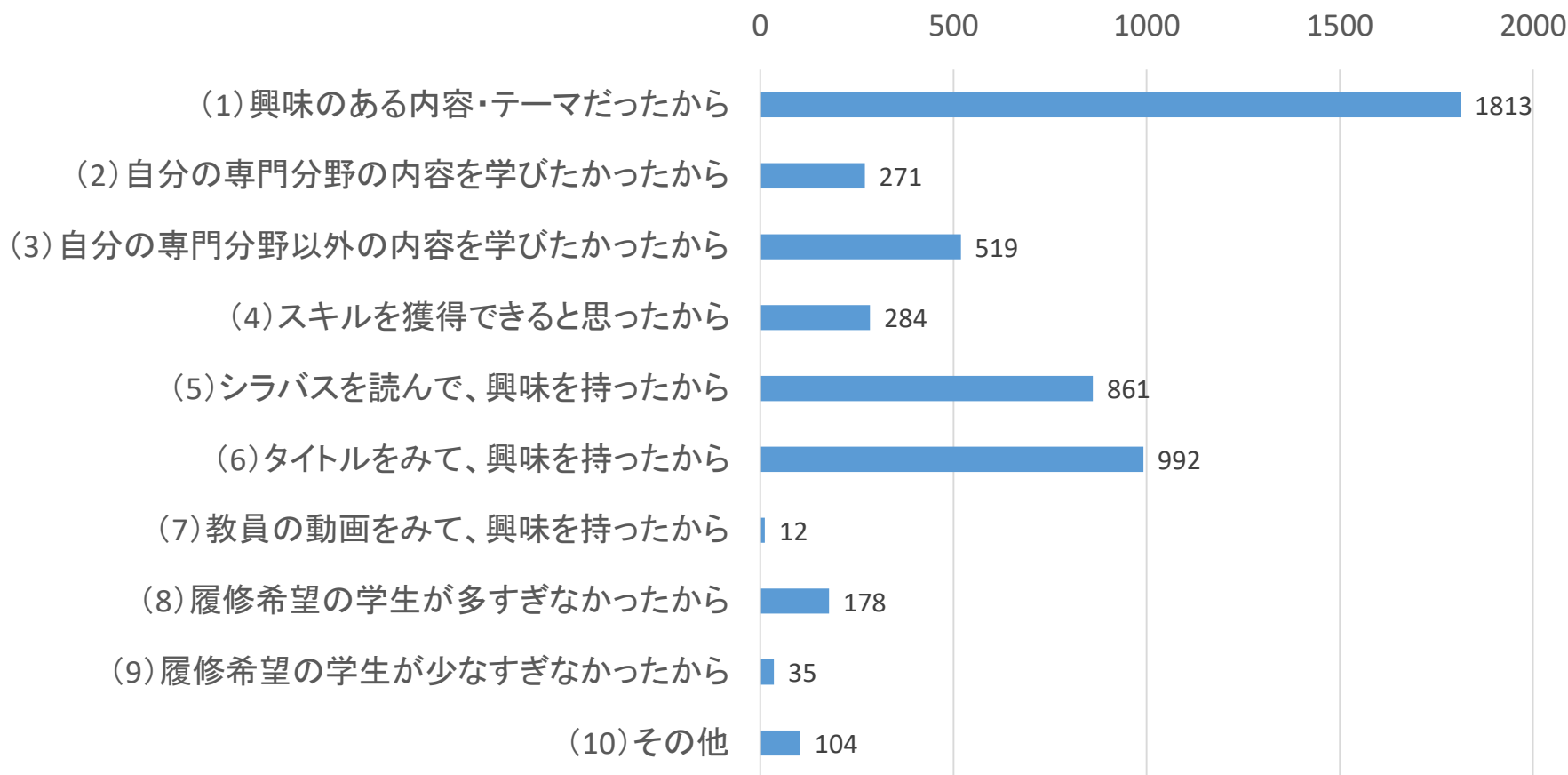


「学問への扉」学生対象アンケート

- 調査時期: 7月下旬～8月末
- 調査方法: KOANのWebアンケートシステムによる回答
 - 授業担当者から授業時に連絡していただき、
可能であれば授業中にスマートフォンなどから回答
 - 8月に学生にメールでリマインダを送信

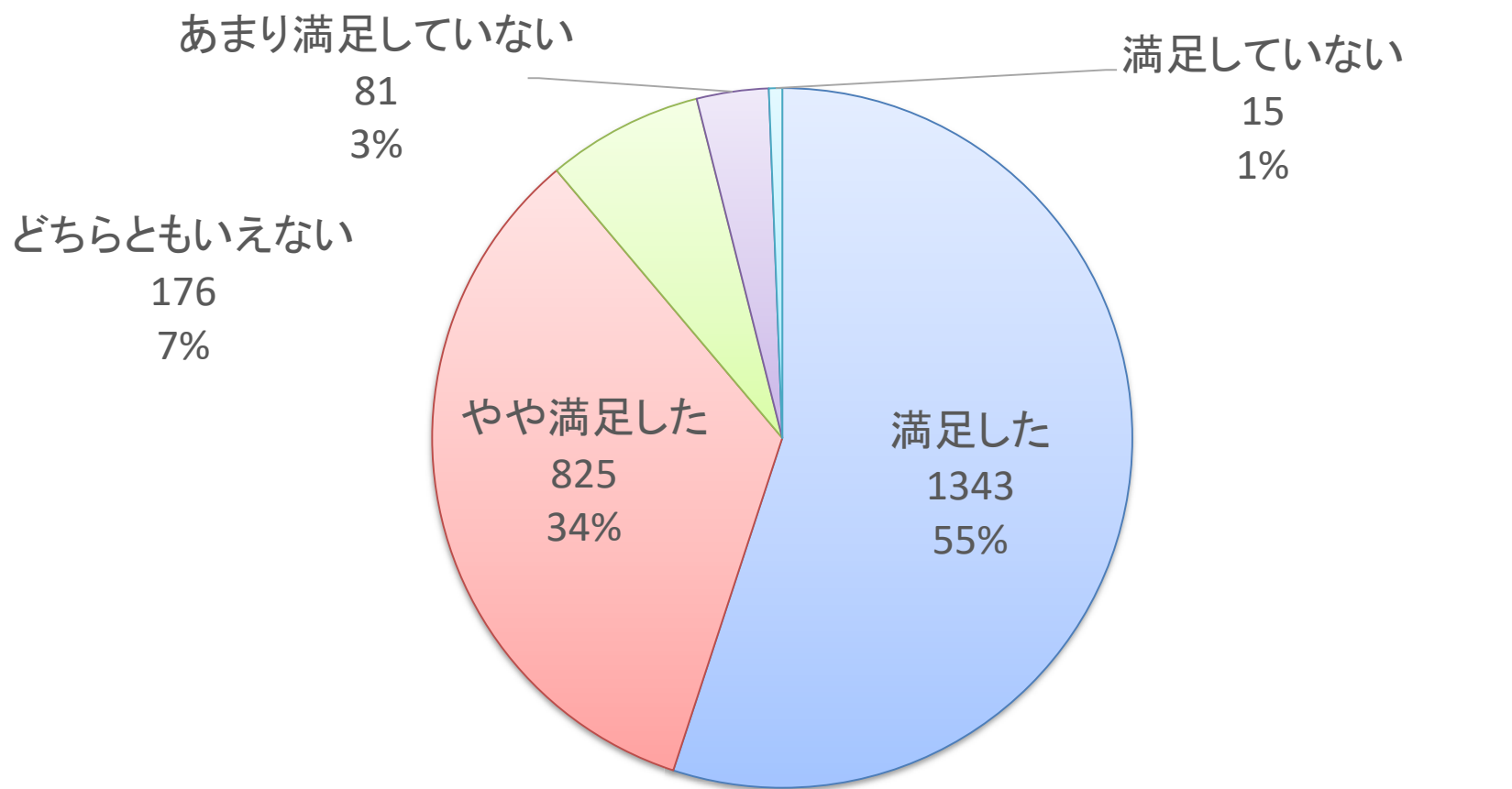
	受講者数	回答者数	回答率
2019年度	3,344	2,306	69.0%
2020年度	3,355	2,666	79.5%
2021年度	3,354	2,441	72.8%

設問1: 当初希望したクラスを選んだ理由 (当初抱いていた期待) 2021年度



設問3:実際に今のクラスを受講して(当初の期待に対して)満足度はどのようなものですか？

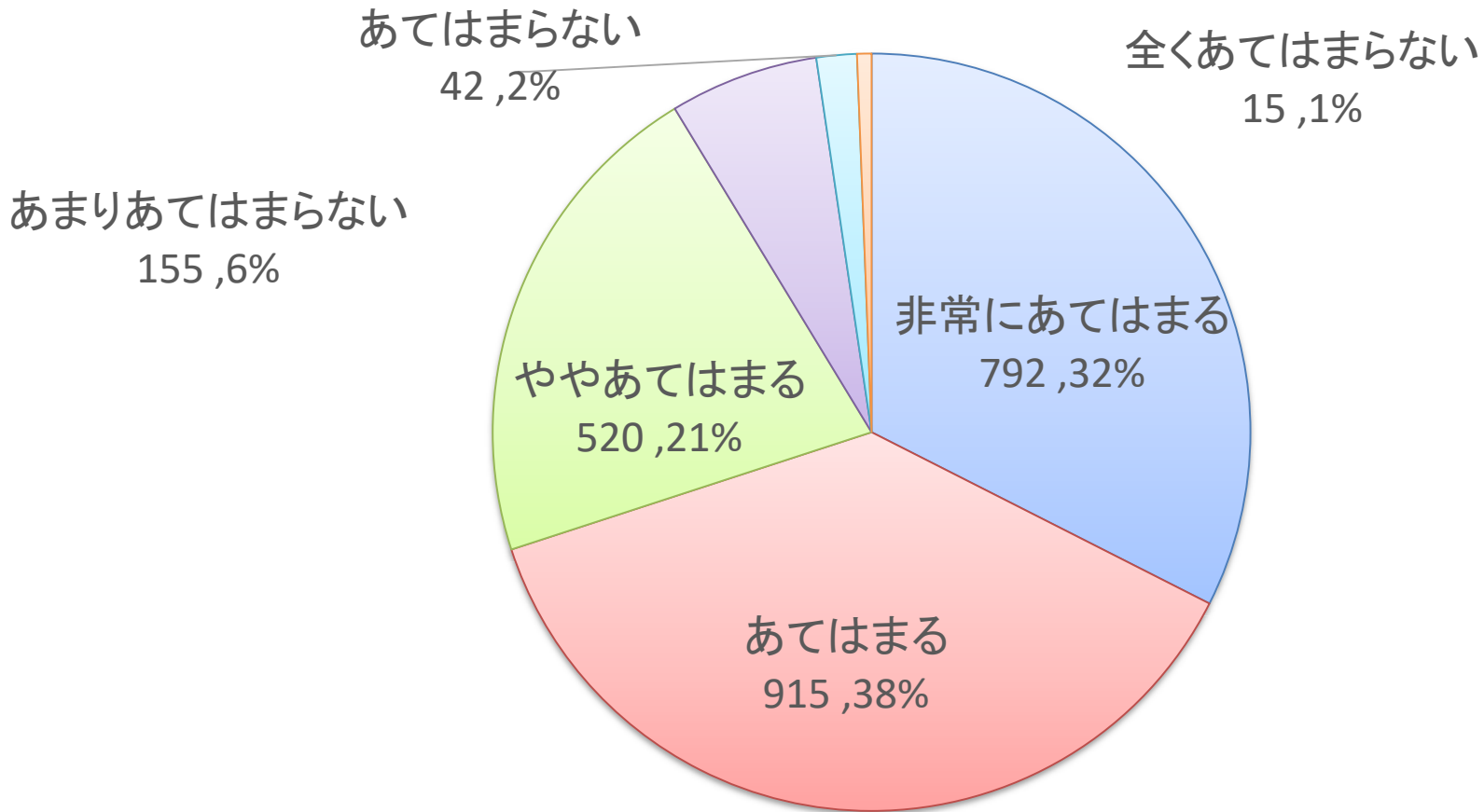
満足度平均 4.39 (2020年度 4.37 2019年度 4.09)



■ 満足した ■ やや満足した ■ どちらともいえない ■ あまり満足していない ■ 満足していない n=2666

設問4: 研究の面白さを感じられた

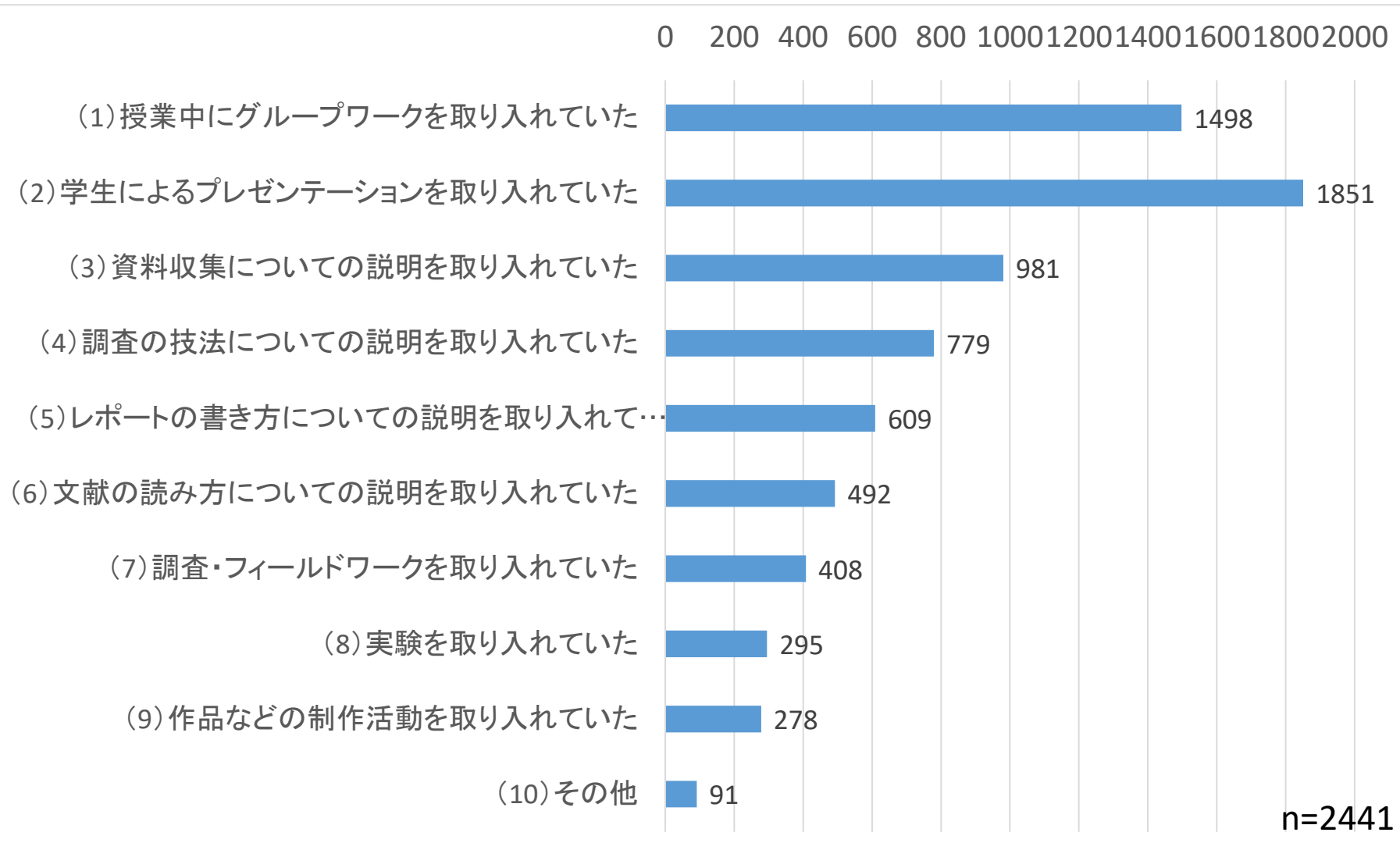
平均 4.91 (2020年度 4.89 2019年度 4.58)



■ 非常にあてはまる ■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ 全くあてはまらない

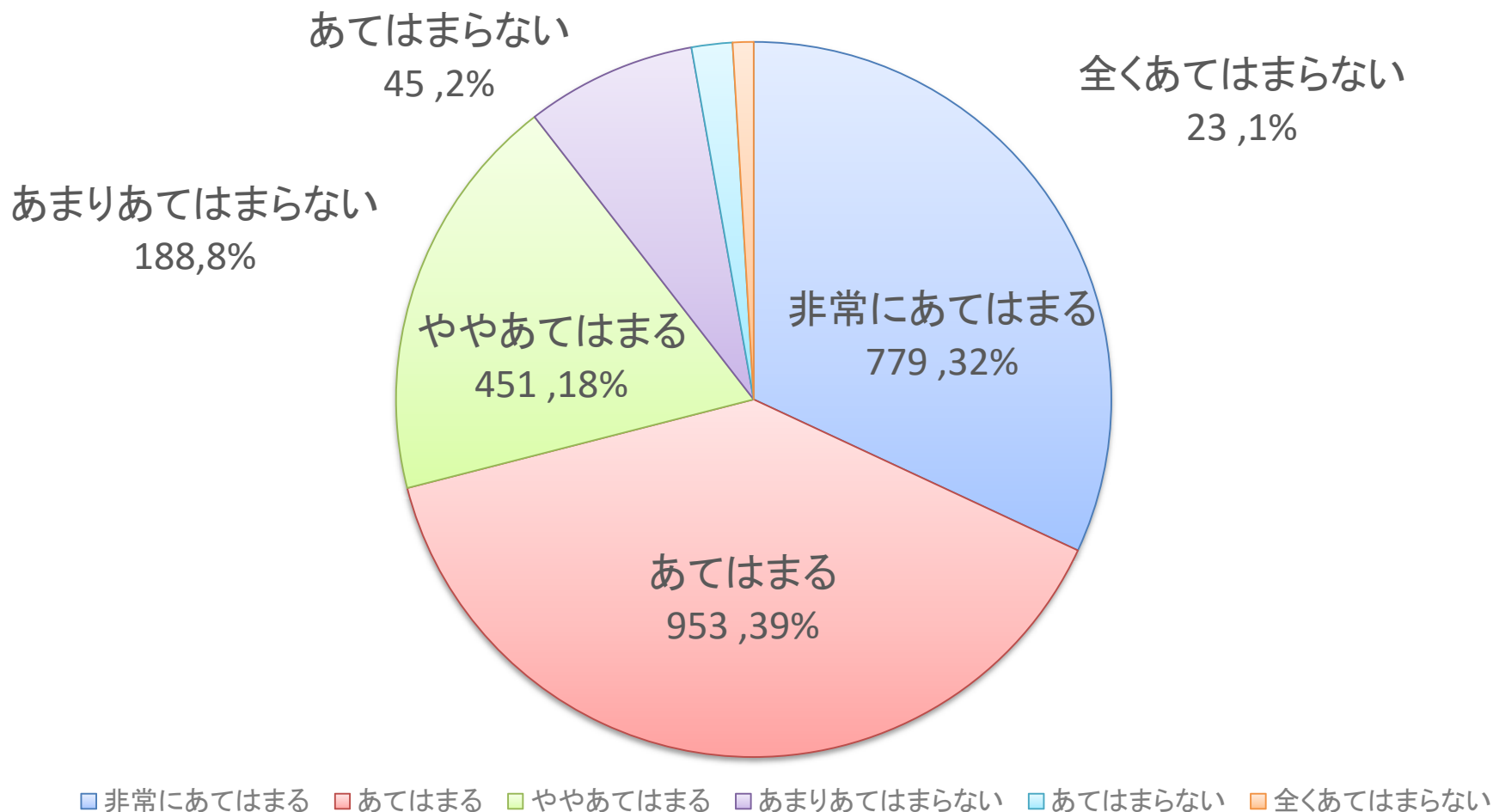
n=2441

設問5: 教員は授業(宿題、課題を含む)にどのような教育方法を取り入れていましたか?



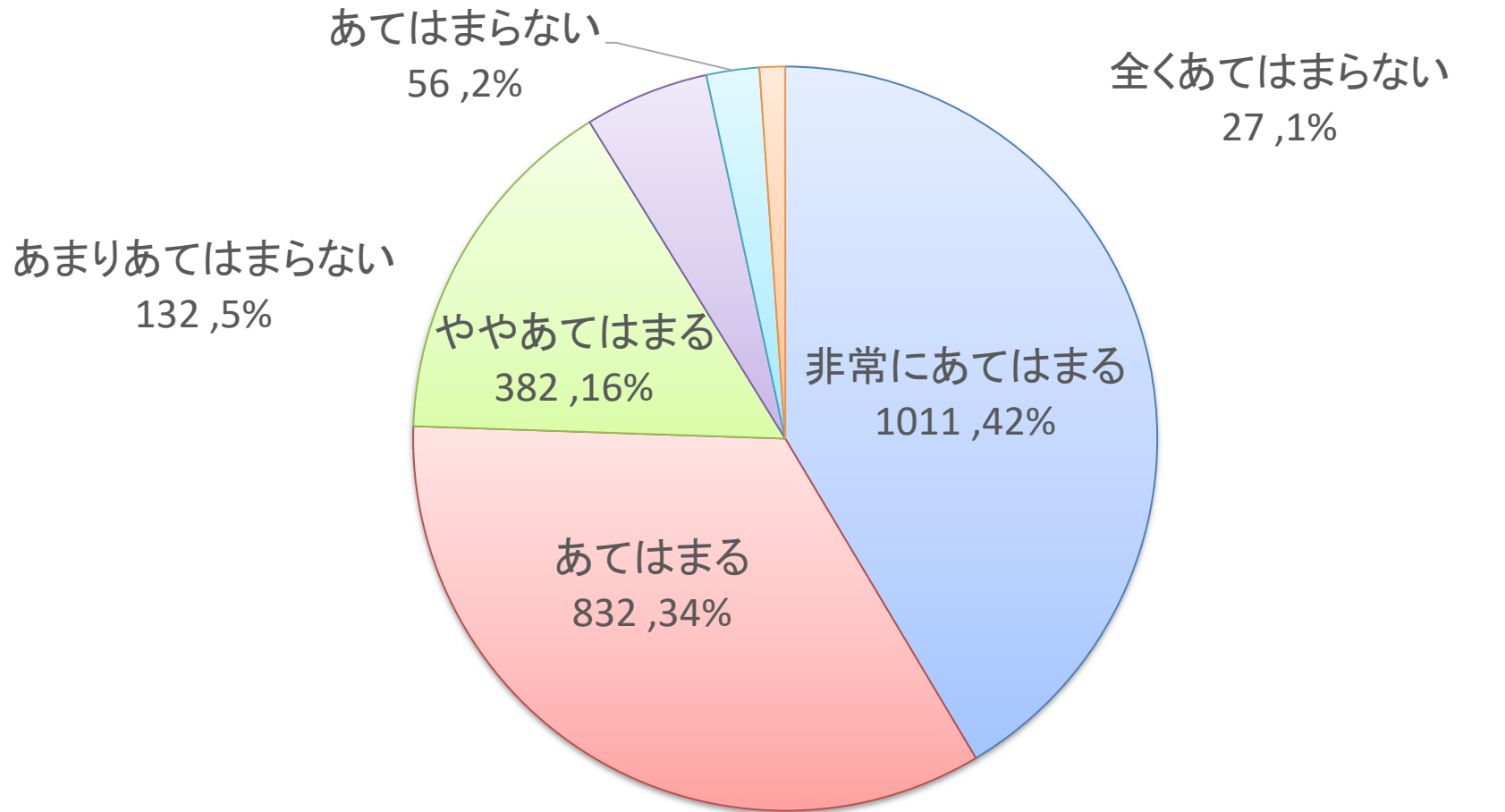
設問7: 教員から、取り入れた教育方法について十分に説明があった

2021年度 平均 4.89 (2020年度 4.92 2019年度 4.84)



設問8: 教員は、学生の発言を 促すように支援していた

2021年度 平均 5.04 (2020年度 4.81 2019年度 4.99)

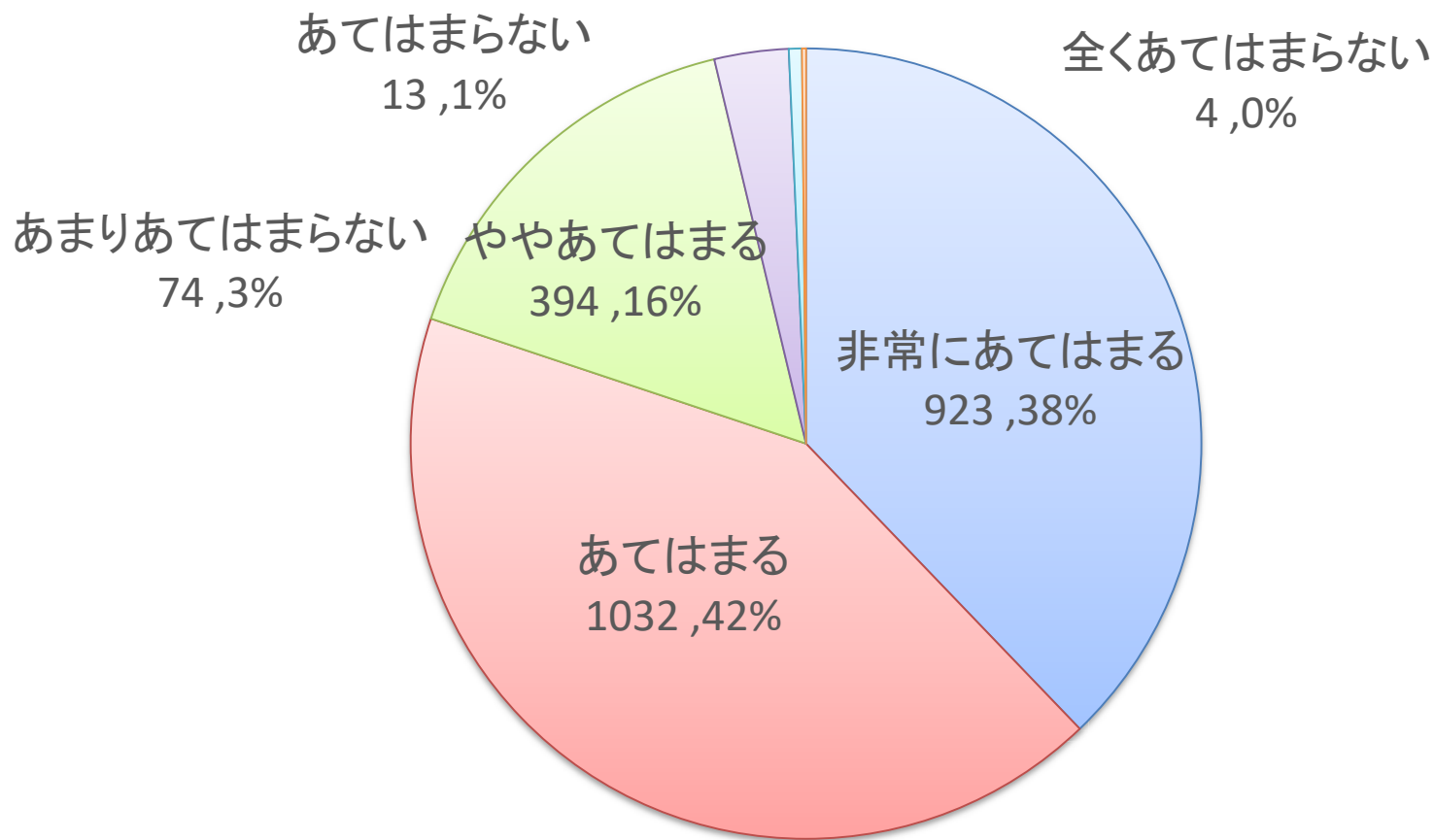


■ 非常にあてはまる ■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ 全くあてはまらない

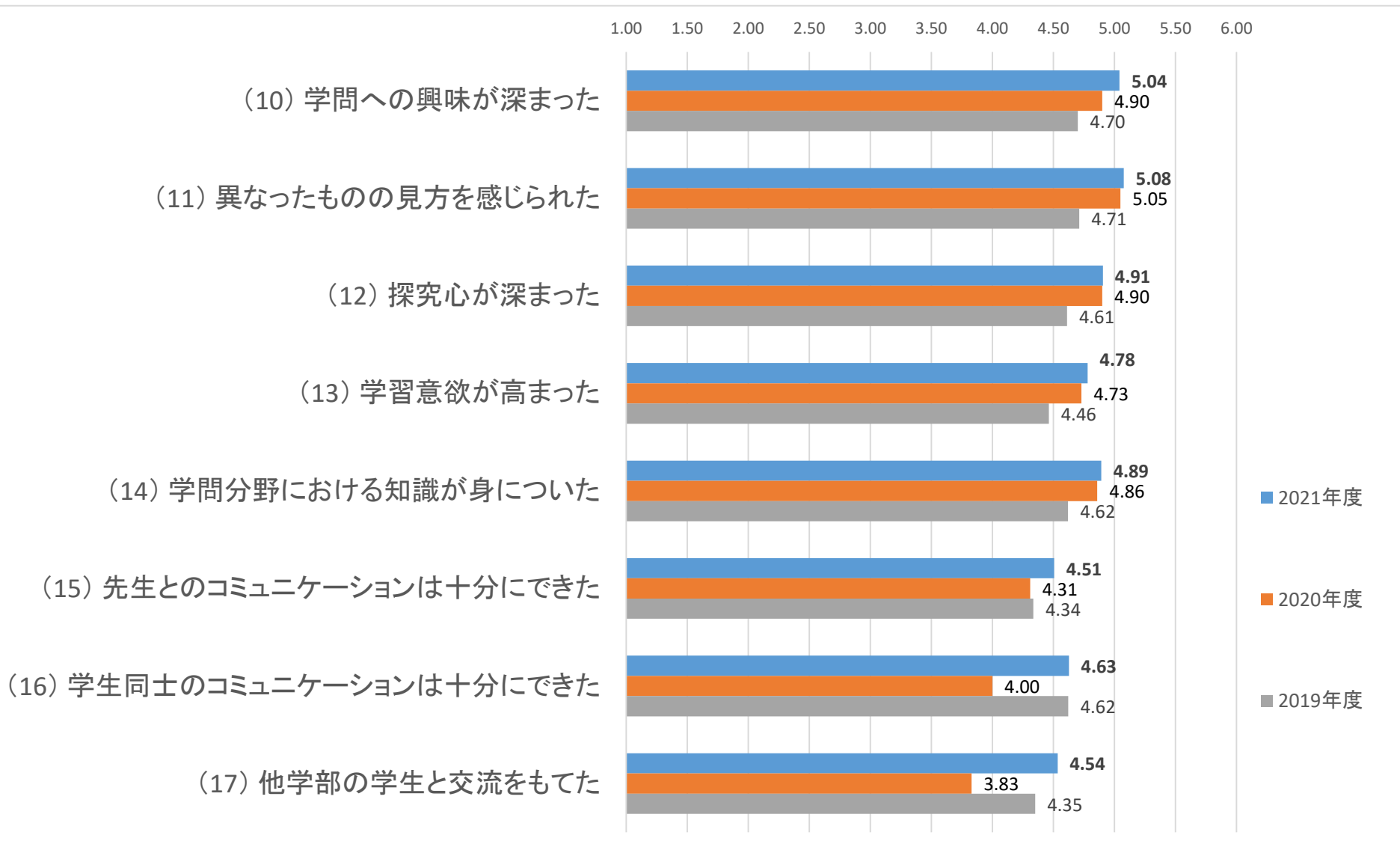
n=2441

設問9: 教員は、学生の興味や関心を 引き出すように試みていた

2021年度 平均 5.13 (2020年度 5.12 2019年度 4.89)

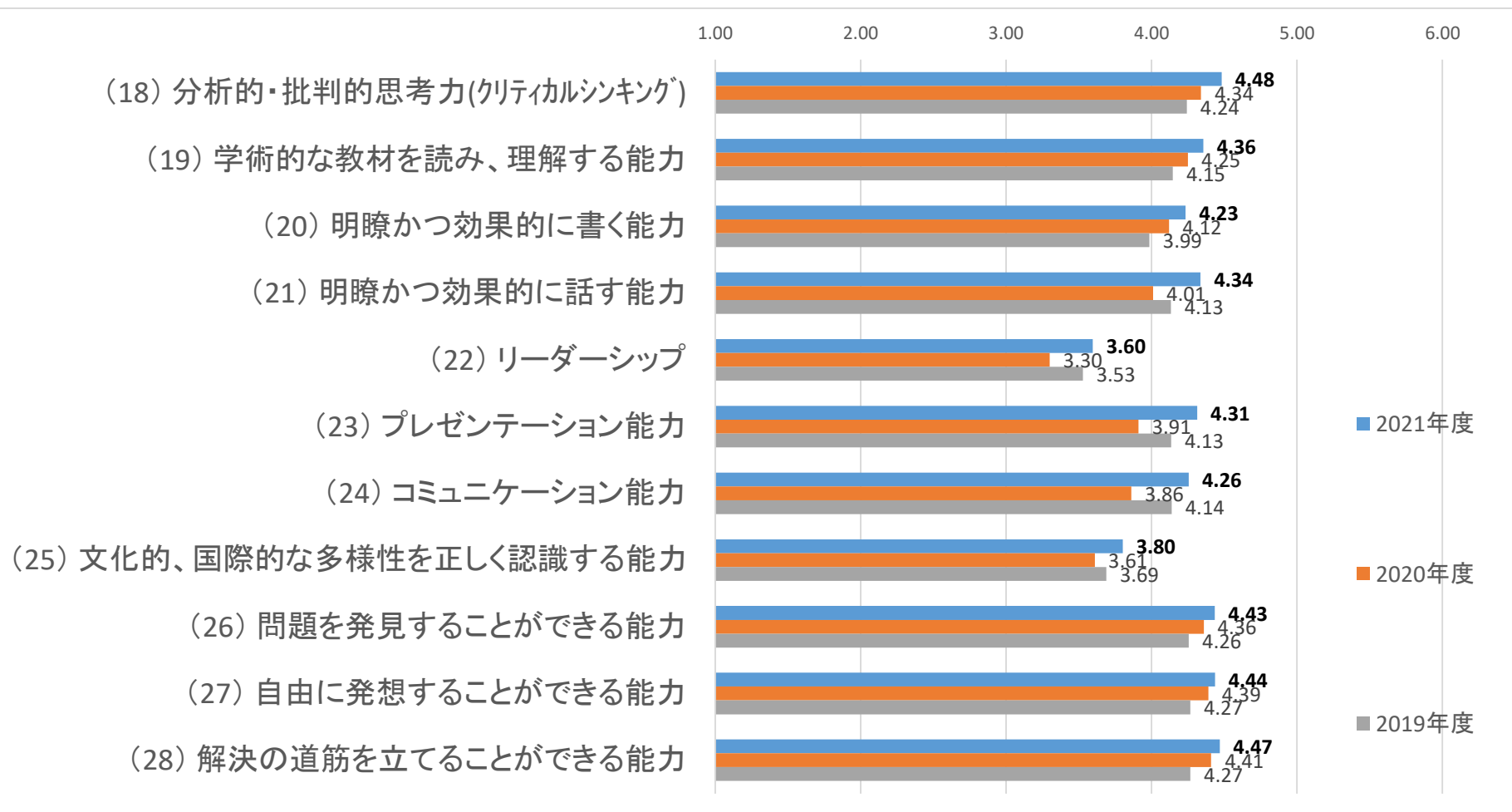


設問10～17: 学生の意識



2021年度 n=2441 2020年度 n=2666 2019年度 n=2306

設問18～28：学生の能力向上



考察(満足度・学生の意識)

- 満足度

- 年々向上している(4.09 → 4.37 → 4.39)

- 2020年度は6割がオンデマンド型授業(村上ら 2021)、リアルタイム授業でも、学生同士のやりとりが少ないことから、教員や学生同士の交流を求めている
- 2021年度も対面・オンラインが混在していた中で教員・学生の交流が満たされていた

- 研究の面白さ 毎年90%以上が感じている

- 学問への興味や学習意欲などの評価が向上

→ 教員は、学生の興味関心の引き出しについて試みていたことも影響(学生の95%以上が実感)

考察(能力の向上)

- 思考能力や問題発見能力などの向上については、年々上昇している
- プレゼンテーションやコミュニケーション能力の向上については、2020年度低下していたが、2021年度に上昇している
 - オンライン授業では、これらの能力において寄与しにくいこと、**対面の有効性**が推測される

オンライン授業という状況の中で
「学問への扉」における有効性について
一定の評価を得ることができた